

令和4年3月31日

高知リハビリテーション学院
学院長 大倉 三洋 様

学校関係者評価委員会
委員長 元吉 明

学校関係者評価委員会報告

令和2年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1 学校関係者評価委員

- ① 山本 孝利（特定医療法人 防治会 事務局次長）
- ② 元吉 明（高知リハビリテーション学院 同窓会 監事）
- ③ 片山 憲（高知リハビリテーション学院 後援会 会長）
- ④ 伊藤 博史（土佐市文化協会会長）
- ⑤ 江渕土佐生（土佐市議会議員）

学校関係者

大倉 三洋（学院長）
濱田 和範（副学院長 教務部長）
清岡 学（学生部長）

2 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 令和3年9月30日
第2回委員会 令和4年3月31日

3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

I 各評価項目について

1 教育理念・目的・人材育成像

【現状と課題】

学校法人高知学園の建学の精神である「人に信頼される人物の育成」を中心に本学院の教育理念としては、「至誠心」「先進・進取の気性」を掲げており、その内容はホームページ等さまざまな手段で学校法人関係者はもとより、教職員・学生・保護者・その他学院外へも公表されている。

本学院は、心身の機能回復や障害などを解決していく医学的リハビリテーションに関する高度で専門的な知識と技能を養成していく理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の養成機関として、私学では全国の魁となる歴史と伝統を有している。

本学院の教育理念である先進・進取の気風をもって至誠心や人間性を育む実践教育にあたるとともに発達障害児に対する取り組みなど地域に根づいた学院づくりに力を注いできており、地元自治体はもとより、県とも連携した医療・保健・福祉活動を積極的に展開してきている。

【意見】

引き続き地元自治体との連携を深め、地域医療、地域福祉を中心とした地域の活性化や地方創世に貢献できるよう努力して行ってほしい。また、社会のニーズに対応できる質の高い教育に積極的に取り組まれ、有為な人材の輩出、リハビリに対する気持ちを高めるような教育をしてほしい。

(文責 大倉)

2 学校運営

【現状と課題】

理事会・評議員で決定された経営方針や事業計画のもとでの学校経営、また、運営面では予算に基づき適正な対応がなされている。就業規定をはじめ必要な諸規定は完備されている。

学校運営のための組織と意思決定等についても整備された諸規定のもと教授会を中心とした円滑な対応が図られている。各種制度や規定については必要に応じ、点検等も行われている。

教育活動に関してはホームページをはじめ積極的に情報公開されており、教務システムなど業務の効率化を図る情報システム化も進んでいる。

なお、平成31年4月の専門職大学の開学に伴い、学院としての学生募集は停止し、最終学年の学生の卒業予定の令和4年3月での閉校を目指し、取組みを進めている。

【意見】

更なる学校情報の提供に向け、工夫をして行ってほしい。(文責 岡崎)

3 教育活動

(1) 目標の設定

【現状と課題】

指定規則に基づいてカリキュラムを編成している。対象者と全人格的な関わりの中で展開される仕事であるから、人間としての成熟も問われる。このような役割を担うためには教養や人間教育にも時間をかけ、より広い視野を持った高い人間性を育むための指導にも取り組んでいる。課題としては自分の力で考え行動できる専門職となれるよう教育体制の見直しと強化が必要である。

国家試験対策の有り方について見直し、全員合格を目指し徹底した指導や対策を行う。特に、コンプライアンスの低い学生については、今後も指導強化が必要と考える。また、下位者の底上げも重要であるが、上位者はより高得点をあげられるよう指導も重要である。

【意見】

現場が求める実践力のある人材を育成するために企業との連携をさらに深める取り組みやシステムを検討していただきたい。

(2) 教育方法・評価等

【現状と課題】

基礎学力など学生間の格差を是正しながら学生の自主性を高め自分で考える能動的学習ができるよう取り組んでいる。

臨床医学に関しては、医師を主体に講師の確保に努めているが、医師不足や派遣する施設側の最経営重視等の観点から定着が非常に困難な状況にあり良質な医学教育を提供かつ継続することが今後益々厳しくなることが予想される。

【意見】

教育課程の編成などに際しては組織的に対応しており、引き続き施設関係者や関係団体等の連携にも努めていただきたい。

(3) 成績評価・単位認定等

【現状と課題】

入学時に学生便覧、毎年度始めには授業科目要綱(シラバス)を全学生に配布し、その中で、成績評価、単位認定基準を明文化し、かつ説明も行っている。

【意見】

今後も明確な成績評価を実施に努めてほしい。

(文責 濱田)

(4) 資格・免許の取得の指導体制

【現状と課題】

国家試験対策委員を中心に模擬試験、国家試験対策、個別指導を行っている。国家試験不合格者に対しては無料で学校設備の利用や指導を行っている。国家試験不合格者の多くは、専門知識のみならず読解力など基礎学力も不足している。本学オリジナルの成績表を作成し、成績分析に基づき学生各人に応じた課題や学習法を助言・指導を行う学生一人一人にきめ細かいサポートを実施している。

【意見】

高い国家試験合格率を目指し、国家試験の指導のさらなる充実に努めてほしい。

(5) 教員・教員組織

【現状と課題】

教務、臨床、評価など分野ごとに規程に基づく組織（委員会）を置き分担と責任を明確にした対応を図っている。特に臨床医学系の兼任教員は専門性の高い人物を選んでいるが「国家試験出題基準」と「国家試験過去問題」も踏まえた、教育内容の授業を依頼している。

【意見】

教員の資質向上等を図っていくなど積極的に研修等に参加し、能力を高めるよう常に努めてほしい。また、さらなる情報の共有化等を行い、学力面に問題のある学生への指導方法を複数教員で対応していくなど、更なる充実に向け取り組んでほしい。

(文責 濱田)

4 学修成果

(1) 就職率

【現状と課題】

学生に対して、個別相談や就職指導を重ねて行うとともに、就職状況については教職員全体で情報共有している。また、就職試験に関するデータの収集をおこない、今後の就職試験対策の資料としている。現在も求人件数が就職希望者の数十倍といった状況にはあるが今後、県内の求人数の減少が予測されるため求人数の多い県外への就職を学生に啓発し推進していく必要がある。

【意見】

現在も求人件数は多い状況ではあるが、県内の求人数は減少傾向にある。求人件数の多い県外への就職を学生に啓発していくことは重要であるが、県内での新たな就職先の開拓にも努めてほしい。

(文責 清岡)

(2) 資格・免許の取得率

【現状と課題】

国家試験対策室を中心に、国家試験全員合格を目標に取り組んでいる。1年次から各授業の中で国家試験関連の講義を授業の中でも取り入れている。また、学科・学年ごとに小テストや模擬試験や実力試験等を実施し、それらの結果を教員間で共有して個別対応も行っている。

模擬試験後に解説書をわたすだけでなく、不正解問題の理解をできているかの確認作業もさせなければならない。模擬試験では常に全国平均値を上回ることをmustして取り組まなければならない。

【意見】

年々増加傾向にある基礎学力の低い学生や国家試験対策に参加しない学生(コンプライアンスが低い)への効果的な対応策についても検討していただきたい。

(3) 卒業生の社会的評価

【現状と課題】

数多くの卒業生が関連領域で教員を務めるなど社会的な活躍をしている。卒業後も出身学科の教員などを中心に相談を受け助言や支援している。今後も卒業生の対外的な評価を把握し、社会貢献できる人材の育成に努めていくことが望まれる。

【意見】

特記事項なし

(文責 濱田)

5 学生支援

【現状と課題】

就職支援については就職相談室に専任職員を配置し、学生個別にきめ細かい支援体制が築かれている。

健康支援については保健室やカウンセラーを配置し、対応している。

学習支援については、相談体制を整備するとともに、保護者面談会を実施し学校と家庭での教育の一体化を目指した活動を行っている。

クラブ活動も推奨しており、予算面での支援も行っている。

また、奨学金制度や土佐市の就学支援金制度を活用し、経済的支援も行っている。

同窓会活動については、現在全国のブロック化と名簿管理システムが導入され効率化が図られている。

同一法人の高校とは連携した職業教育（フェローシップ）も継続しており、多くの生徒がキャリア教育を受けている。

これらの学生に対する支援体制は、今後も継続して行っていく。

【意見】

特記事項なし

(文責 清岡)

6 教育環境

(1) 施設・設備等

【現状と課題】

養成施設として必要な機器や設備、備品については規則を遵守した配備が図られている。さらに、最先端の教育機材の導入を図られるなど、医療現場や生活介護支援実態に応じた最新鋭の教育環境が整備されている。

蔵書約3万冊を整える図書館棟では、情報教育を推進していくためのパソコン教室も整備されている。

こうした教育に必要な校地はすべて地元自治体が整備、提供してくれているが、体育教科の実施やクラブ活動のための運動場の確保が課題となっている。

【意見】

今後とも地元自治体と連携した教育環境整備に努めてほしい。(文責 岡崎)

(2) 学外実習、インターンシップ等

【現状と課題】

実習施設とは常に連携した教育を行っており、学生の状況・実績の把握も行われている。卒業生が実習指導者となって、実習生の指導に当たるというケースが増え、学校の考え方を理解しながら実習指導をしてくれる施設が増えている。

臨床実習指導者連絡協議会では、実習指導者を対象とした研修講座を開催している。これは、臨床実習指導をより充実させるために、実習施設指導者の教育指導力向上と、実習施設と学校との共通理解を深めることを目的としている。

【意見】

人の人生や生命に関わる業務に携わるだけに、その業務に取り組む心構えの如何が厳しく問われる。専門性を高めるだけでなく人間力を高める教育にも力をいれてほしい。

(文責 濱田)

7 学生の募集と受入れ

(1) 【現状と課題】

専門職大学が平成31年4月に開学し、学院（専門学校）は、学生募集を停止した。

【意見】

特記事項なし。

（文責 清岡）

(2) 入学選考

【現状と課題】

専門職大学が平成31年4月に開学し、学院（専門学校）は、学生募集を停止し、入学選考は実施していない。

【意見】

特記事項なし。

（文責 濱田）

8 財 務

【現状と課題】

校舎建築費の償還を行っているが、健全な財務内容である。

平成 30 年度の入学者は全学科で定員を下回った厳しい状況であるが、大学化による再編により打開していけるよう取組んでいくことにしている。

会計監査も定期的に行われており、財務情報はホームページで公開されている。

【意見】

特記事項なし

(文責 岡崎)

9 法令等の遵守

【現状と課題】

関係法令及び学内規程については、その制定や改正などに応じ、教授会などにおいて周知、徹底されている。学生に対しては、便覧により全員に諸規定の周知を図るとともに、ホームルーム等機会あるごとに、その、遵守について説諭されている。

個人情報についても保護委員会規程が定められ、そのもとでの適切な対応が図られている。

学校評価については、自己点検・評価委員会規程のもと、実施組織を置いての対応がなされており、報告書が公表されている。

【意見】

これら法令等の遵守は学校運営の根幹であるので、引き続き厳正な対応に努めてほしい。

(文責 岡崎)

10 社会貢献・地域貢献

【現状と課題】

地元自治体や自治会などと連携し、高齢者や学童の健康増進を図る出前講座や体力測定といった専門性を活かした取り組みを行っており、より活発化させていく。

3万冊の蔵書を有する図書館は地域に開放されている。

また学校施設は地域にも開放しており、経済団体などとの交流も行っている。

病院・施設におけるボランティア活動には精力的に参加しており、また、地域自治会の清掃ボランティアなどにも積極的に参加している。

【意見】

県内の自治体と連携した教育訓練なども活発に行っており引き続き、貢献に努めていってほしい。

(文責 清岡)

11 国際交流

【現状と課題】

留学生の受け入れは現在行われていないが、国際化の進展等を踏まえ、対応についても検討していくことが望まれる。

【意見】

留学生の受け入れを検討して欲しい。

(文責 清岡)